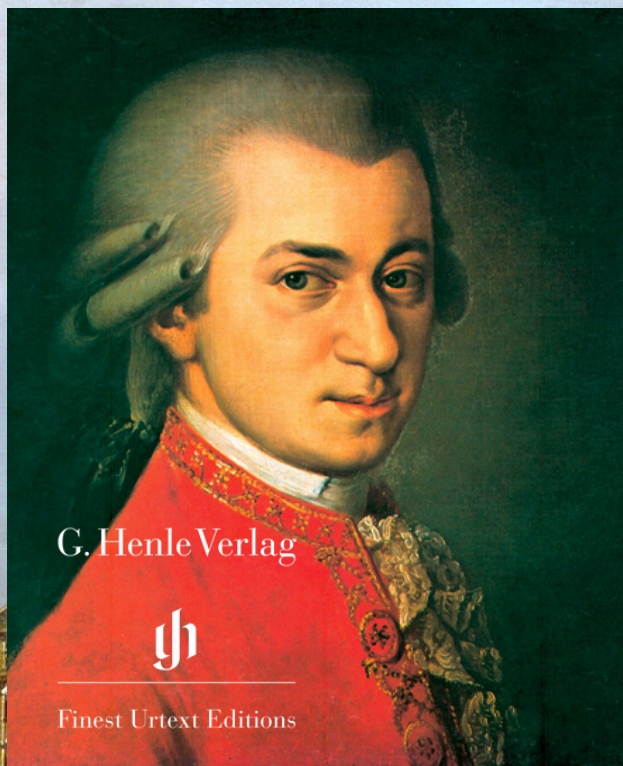


至極のモーツァルト

W. A. モーツァルト

ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K. 488



この作品は ...

- モーツァルトがウィーンで行われている自らの定期演奏会のために書き、初演しました。
- そのため、第1楽章と第3楽章に見事な超絶技巧がしばしば登場します。
- この協奏曲は後期ウィーン古典派のピアノ協奏曲のひとつで、モーツァルトはこのジャンルを完璧なものにしました。
- この作品はモーツァルトがオーボエの代わりにクラリネットを用いた、数少ない管弦楽作品（協奏曲や交響曲）のひとつです。

ヘンレ版について

- ヘンレ版はモーツァルト自筆のスコアのみに基づいています。自筆譜はファクシミリ版としても出版しています (HN 3216)。
- 運指はアンドレアス・シフが担当しています。



... パッセージ

- 緩やかな中間楽章がおそらく有名でしょう。モーツァルトにしては珍しく嬰へ短調で書かれた、夢想的かつロマンティックなアダージョです。

... アンバサダー

- 作曲家でピアニストのカール・ライネッケ (1824-1910)は、コンサートプログラムにモーツァルトのピアノ協奏曲が再び取り入れられるべく力を尽くしました。またこの作品が広く聴衆に知られるよう、緩徐楽章をピアノ独奏用に編曲しました。

もつとも有名な